

教職支援室便り（1月号）

令和6年 1月 12日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教職課程履修者の皆さんへ 卒業生からのエール

1月に入り、新しい年がスタートしました。卒業される学生の皆さんは、いよいよ3月には卒業式を迎えます。また、教職に就く皆さんにとっては、赴任する学校を知らせる通知を待つばかりです。今の心境は、教職への希望と不安が錯綜して複雑でしょう。確かに、教員の業務には厳しいものがあります。学習指導や生徒指導、学校行事や地域での活動など、多くの業務の中で、大変な仕事だと感じることがあります。しかし、教職をやりがいのある仕事だと、実感することも多くあります。宮崎公立大学の卒業生としての誇りをもち、これからの教職人生を、素晴らしいものにしてください。



そこで1月号、2月号、3月号では、教職に就く皆さん、また今後教職をめざす皆さんへの、卒業生からのエールを紹介します。今回は、宮崎県宮崎市立住吉小学校の大坪千里さんに寄稿していただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

令和5年3月卒業

宮崎県宮崎市立住吉小学校 大坪千里さん

宮崎公立大学のみなさん、こんにちは。

私は、教員1年目の宮崎公立大卒業生です。現在は、小学校2年生を担当させていただいています。

4月から始まった1年目ですが、はじめは何をしたら良いのかすら分からず、先生方についていくのがやっとの毎日でした。勤務時間は、校務分掌や書写主任、学年の仕事に追われ、自分の学級の仕事はほとんどする時間はなく、土日も仕事をしていました。これを聞くと、やはり教師の大変で、忙しい職業だと思うかもしれませんが、その中には沢山のやりがいや楽しさ、嬉しいことがあります。ここまでの7か月、もちろん失敗も沢山あり、悔しくて、涙がでることもありました。そんなとき、私を元気づけてくれたのは、子どもたちで、何より支えられてきました。毎日、お手紙や絵をもらったり、誕生日にはお花をもらったり、子どもたちが私を笑顔にしてくれます。そして、なによりも子どもたちの成長をそばで感じられることが本当に嬉しいです。4月に出会ったときと、今では、私も子どもたちも何倍も成長していると思います。子どもたち、保護者に恵まれ、一緒に成長できることが、とても幸せです。

教職1年目は、想像以上のきつさがあると思います。そんなときに力となるのは、大学での学びだと思います。教職課程、その他の学びを含め、本当に宮崎公立大学で良かったなと実感させられることが沢山ありました。卒業した後も、曾我先生をはじめとする先生方、一緒に大学で学んだ仲間にも助けてもらっています。今、一緒に学んでいる先生方、仲間を大切にこれからも学び続けてください。そして、「こんな先生になりたい」という目標をもって、大学生生活で沢山のことを経験し、楽しんでください。心から応援しています。

教員採用選考試験英語科合格者数（九州各県）

採用年度		令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
宮崎	中	7	11	11	10	15	11
	高	2	6	7	2	6	3
沖縄	中	26	15	12	14	15	15
	高	8	6	4	7	7	5
鹿児島	中	24	25	20	20	20	18
	高	5	4	3	3	3	4
大分	中	10	18	20	20	22	22
	高	4	4	3	10	6	9
熊本	中	10	15	13	11	13	12
	高	10	7	3	2	2	3
長崎	中	15	16	11	14	14	12
	高	19	10	9	8	7	5
佐賀	中	14	13	20	17	14	14
	高	3	3	5	5	4	4
福岡	中	58	66	52	49	36	40
	高	21	18	16	18	27	32

教員採用選考試験における英語力の重要性

現在、教員採用選考試験においては、小学校教員の採用者数が全国的に多い一方で、中学校英語、高等学校英語については、受験者の減少傾向はあるものの、本資料の合格者数からも、依然として厳しい状況にあると言えます。また、大学生の皆さんにとっては、学校現場で勤務している、臨時的任用講師等の先生方と競合する試験であることから、本当に狭き門であると考えます。

本学では、教員採用選考試験に向けて「教職特別講座」を行っていますが、学生の皆さんの自助努力も不可欠であり、英語力を磨くこと、英語力を向上させることは、合格への必須要件です。TOEIC 730点以上、英語検定試験準1級以上等の資格取得に向けて、積極的に英語力向上に取り組んでほしいと思います。

教職教養の重要性と主体的な演習への取組

教員採用選考試験においては、教職教養に関する知識を習得、活用して、教育問題に対する自己の考えを、十分に表現できる力を身に付けなければなりません。教職教養の演習で培われる力は、一次試験「筆記試験」だけではなく、二次試験「面接、集団討論、グループワーク、小論」などにも大きく影響します。

大切なことは、一次試験に向けて、意図的・計画的に、誠実に「教職特別講座」の演習に取り組むとともに、自分で工夫しながら勉強を進めていくことです。担当者としては、学生の皆さんのあらゆるニーズに応えていきたいと思いますが、各自「主体性」をもった取組が重要です。1年の間には、壁にぶつかることもあると思いますが、問題意識・課題意識をもって、粘り強く取り組んでほしいと思います。私も学生の皆さんと、充実した1年を過ごしたいです。

「教職特別講座」 討論演習内容について

「教職特別講座」では、教育問題についての討論演習にも取り組んでいます。学生の皆さんは、学校教育を取り巻く様々な問題・課題を、実際には体験していませんが、教職教養を演習し、教職を理解していくプロセスの中で、教員としての問題意識・課題意識をもつようになります。そのときに、教育問題の討論に取り組むことは、更に教職への理解を深める上で有意義です。

本年10月から始まった「教職特別講座」では、次の内容で計画的に討論演習を行います。

討論1

教員に求められる資質・能力の中で、あなたが最も重視するものは何ですか。また、教員として、どのように資質・能力の向上に取り組んでいきますか。

討論2

教育基本法第9条には、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあります。また、多くの自治体では、求める教員像に「使命感のある教員」を掲げています。あなたは、教員の「使命感」を、どのように捉えていますか。

討論3

教職員の服務規律違反については、テレビ、新聞等で報道されることがあります。教職員の服務規律違反の起こる要因と、それを解決するための取組等について討論してください。

討論4

教員にとって「学び続ける姿勢（力）」は、大切な資質・能力とされています。あなたは、教員として「学び続ける姿勢（力）」を持続し、指導力を向上させるためには、どのような意思をもち、教職生活を送ればよいと考えますか。

討論5

いじめの認知件数は、令和3年度再び60万件を超え、令和4年度には70万件に迫る数となっています。あなたは、学級担任として、いじめ問題にどのように取り組んでいきますか。

討論6

不登校児童生徒数は、令和4年度35万人を超えました。あなたは、学級担任として、不登校問題にどのように取り組んでいきますか。

討論の内容については、2月号でも掲載したいと思います。

道徳の教科化に思う！（シリーズ80）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びを考える」をテーマに、その1として「1 これまでの道徳科の時間（道徳授業）の課題」「2 本テーマに関する学習指導要領等の内容」についてまとめました。

1 これまでの道徳科の時間（道徳授業）の課題

道徳科の時間において、児童生徒が発表する際に望むことは、自分の弱さに触れることであっても、思ったことをありのままに言えることである。このことは、道徳科の特質を生かす上で重要なポイントとなる。それは道徳科の時間が、これまでの自分の生き方を振り返り、今の自分を認め、これからの生き方へと広げる時間であり、自分の弱さへの気付きを抜きにして、これからの生き方考えることはできないからである。つまり、道徳科の時間は、児童生徒一人一人が、自分の弱さに気付き、それを乗り越える（乗り越えようとする）、強さを学ぶことで成立すると考える。その前提は、すべての人が弱さをもっているという、考え方であることは言うまでもない。ゆえに、教師も「一人の学習者」として、授業に臨むことが求められる。

ここで、宮崎公立大学の学生を対象とした、道徳授業に関するアンケートの一部を紹介したい。

Q. 小中学校のとき、道徳の授業は好きでしたか。

好きではなかった（14%）、どちらとも言えない（54%）の理由の一部

- 周りと同じような考えを言わないと、正解ではないような気がした。
- 「きれいごとを言っておけばよい」という空気感があった。
- 正しいことを言わないといけなかった。
- 「～してはいけません」などの内容が多くてつまらなかった。
- 模範解答を言っていた。
- よいことを押し付けられるように思っていた。
- 模範解答を答えさせられている感覚が苦手だった。
- 先生が求めている答えを、出さないといけなかった感じがしていた。 等

このアンケートから、学生の多くが、人間としての弱さに触れられず、模範解答的な発言に終始する、表層的な授業を受けていたことが分かる。児童生徒が、人間としての弱さに気付き、それを他者に伝える授業を行うには、それを可能とする授業力、学級経営力が求められることから、表層的な授業が多く行われてきたことも、理解できないわけではない。

しかし、そのような授業を繰り返しては、児童生徒が人間としての強さを把握することもできず、道徳性を養うという道徳科の目標にアプローチすることはできない。学習指導要領解説にもある「読み物の登場人物の、心情の読み取りに偏った、形式的な道徳授業」からの脱却は困難と言える。

そこで、「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びを考える」をテーマに、「人間としての弱さを理解した上で、人間としての強さを学ぶ」という、道徳科の時間の原点について言及していきたい。その中で、本原点に関する基本的な考え方、教材分析の在り方、発問の在り方などを、抽象論にとどまることなく具体論で考えていきたい。

2 本テーマに関する学習指導要領等の内容

本テーマに関する内容として、学習指導要領等には、次のように述べられている。

<小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」第2節道徳科の目標>

(略)一つは、内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解することである。二つは、道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解することである。三つは、道徳的価値を実現したり実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということをも前提として理解することである。道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。(略)

<中学校学習指導要領「特別の教科 道徳」第3指導計画の作成と内容の取扱い>

(略)発達の段階を考慮し、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとすることのよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢を大切にすること。

上記の内容から分かるように、小学校においては、価値理解、人間理解、他者理解を深めることが主眼であり、中学校においては、それらの理解の上に立ち、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えて、よりよく生きようとすることのよさについての考えを深めることが軸となる。このことは、道徳科の特質を支える考え方として重視したい。

また、小学校高学年及び中学校で取り扱う内容項目に、D-(22)「よりよく生きる喜び」があるが、小学校・中学校学習指導要領解説においては、その概要が次のように述べられている。

<小学校高学年：内容項目D-(22)の概要>

人間は本来、よりよく生きようとする存在であり、そのために人間性をより高めようと努めるすばらしさをもっている。一方で、人間は決して完全なものではない。誰しもが誘惑に負けたり、やすきに流されたりするといった弱さももち合わせている。このようなすばらしさや弱さは決して別々に存在するものではなく、同時に内在しているものである。しかし、人間は決して内在する弱さをそのままにしておく存在ではなく、弱さを羞恥(しゅうち)として受け止め、それを乗り越え誇りを感じることを通して、生きることへの喜びを感じる。また、人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また気高い存在になり得るのである。(略)

<中学校：内容項目D-(22)の概要>

(略)自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことができない自己の強さであり、気高さである。人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく、言わば、表裏の関係ということになる。(略)

本内容項目は、小学校高学年に新たに設けられたものであり、小学校低学年から指導される、すべての内容項目を総括するものであると言える。この記述は、中学校においても同様に、「人間としての弱さを理解した上で、人間としての強さを学ぶ」ことの重要性を伝えている。今後、児童生徒の発達段階を考慮する中で、このような道徳科の授業を行うことが、道徳性を養うためには重要であると、改めて認識できる。